



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	地域ぐるみの6次産業化におけるソーシャル・キャピタルの醸成要因に関する研究〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	川辺, 亮
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(農学)
Dissertation Number	甲第16263号
Issue Date	2025-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94981
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	KAWABE_Ryo_review.pdf, 審査の要旨



学 位 論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称 博 士（農学） 氏名 川 辺 亮

審査担当者	主 査	教 授	坂 爪 浩 史
	副 査	教 授	近 藤 巧
	副 査	教 授	板 橋 衛
	副 査	准教授	清水池 義 治

学 位 論 文 題 名

地域ぐるみの6次産業化におけるソーシャル・キャピタルの醸成要因
に関する研究

本論文は6章からなり、図5、表25、文献170を含むページ数107の和文論文であり、別に参考論文8編が付されている。

本研究の課題は、地域ぐるみの6次産業化におけるソーシャル・キャピタルの醸成要因を明らかにすることである。

6次産業化は地域活性化と内発的发展に資するものであり、農業者を中心とした「地域ぐるみの取組」が本来のかたちである。そのような取組においては、地域の絆と協調的行動を促すソーシャル・キャピタルの醸成が有効であり、自治体が主導し議論や実践の場をつくる必要がある。ただ、これまでの研究は、個別農業経営完結型の6次産業化に偏重して蓄積されており、本研究の志す地域ぐるみの6次産業化という視点からの実証的な研究はほぼ皆無であった。

分析に当たっては、行政機関（マクロ）が支援し人々（ミクロ）を集める中間集団（メゾ）の活動に注目した。分析対象は、地域の多様な人・組織が力を合わせて地域ぐるみの6次産業化に取り組んだ代表的な事例として、都市農業地域である愛知県長久手町と農村地域である大分県竹田市としている。

第1章では、地域ぐるみの6次産業化が内発的发展に資する取組であり、そのためにはソーシャル・キャピタルの醸成が効果的であること、その醸成は信頼関係の深まりと規範を遵守する意識の高まりによるものであること、本研究の事例分析手順は、インタビューをもとに発言内容をコード化、サブカテゴリーを抽出、カテゴリーへと分類することと整理した。

第2章では、都市農業地域における地域ぐるみの6次産業化の取組経緯において、メゾレベルの中間集団が発展し関係者間の信頼と規範が育まれたこと、その醸成要因は、①農業の衰退という地域課題への共通の思い、②6次産業化に意欲を持つ女性農業者、そして③市民会議、研究会の開催、農業交流拠点の開設という各段階における自治体の適切な関与であったことを明らかにした。

第3章では、農村地域における地域ぐるみ6次産業化において、メゾレベルの中間集団

が発展し関係者間の信頼と規範が育まれたこと、その醸成要因は、①過疎化という切実な地域課題への市民共通の危機感、②6次産業化の機会を求める女性農業者等、そして③竹田研究所、経済活性化協議会、農村商社の発足という各段階における自治体の適切な関与であったことを明らかにした。

第4章では、上記2地域についての比較検討を行い、それぞれが地域性を活かし、都市農業地域は飲食業、農村地域は加工品製造を行い、自治体（マクロ）主導でメゾレベルの中間集団が議論・試行・実践の場をつくり、都市部は農業衰退、農村は人口減少・過疎化と、地域課題に相違点をもちつつも、首長のリーダーシップ、自治体職員の意識、女性農業者の6次産業化への意欲が共通点であったことを明らかにした。

終章では以上を総括し、両地域ともに自治体主導によるメゾレベルの中間集団の発展によってソーシャル・キャピタルが醸成し、その要因は首長のリーダーシップと職員の熱意、6次産業化に意欲的な女性農業者の存在であり、自治体の関与は、都市部では町担当課と第三セクターが一貫して事業を進め、農村部では市担当課の兼任、協議会、第三セクターへと、段階ごとに変化しているが、いずれにしても、段階別の適切な関与が重要であることを明らかにした。

本研究は以上の通り、地域ぐるみの6次産業化について、都市地域と農村地域における取組を時系列的かつ要素分解しながら実証的に分析し、6次産業化の進展とソーシャル・キャピタルの醸成が相互規定的に深化するプロセスと要因を解明したものであり、学術的な貢献はもちろん、地域活性化という実践的な課題に対する貢献もきわめて大きい。

よって、審査員一同は、川辺亮が博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認めた。